



サティハル



第 28 次 ネパール派遣団「Japan Day」開催！



2016 年 9 月 22 日、BCML にて、初めて「ジャパン・デイ」を開催しました。地元の小学生が 30 人ほど参加し、我々BFJ のメンバーとの交流を楽しみました。日本のけん玉、竹とんぼ、紙風船、ボール、縄跳びなどを使って、みんなで一緒になって遊びました。初めて体験する日本の遊びに興味津々でした。



昼食は加藤理事長自ら、日本から持参したラーメンを作り、全員にふるまい、みなさんに美味しく食べて頂きました。

昼食後は「となりのトトロ」を上映しましたが、児童が食い入るように見ていた姿が印象的でした。上映後、感想を求めると、「映像がきれいだった。」「姉妹が仲良しで、心が温まりました。」など、好評でした。



サクラリグランスの生徒も浴衣を着て、ジャパン・デイの催しを盛り上げてくれて、大好評のうちに幕を閉じることができました。協力して頂いた皆様には心より感謝申し上げますと共にこうした交流会が継続していくことを心より願っています。

ルムレ小学校 (Lumle School) 新校舎落成式

地震により、学習ができない状態になっていたルムレ小学校に、浜松中ロ一タリーとBFJ の支援により、コンクリートの新校舎が完成しました。第 28 次ネパール派遣団は、落成式に出席し、その功績を称えられました。多くの児童・生徒の喜ぶ顔を見ることができ、我々一同も感慨ひとしおでした。





子ども移動図書館の活動(BCML)

BCMLの活動はブッダ基金の軸をなす活動ですが、突然の地震、憲法制定に伴うインド国境の封鎖など、予期せぬ事態に遭遇してしまいました。ガソリン不足により車が動かせない事態が半年ほど続きまして、一時期活動が停滞していましたが、今年に入って日常の暮らしが安定すると共に、活動が再開されました。

活動開始3年目には、訪問する学校は200校を超えていましたが、図書を活用した教育活動が行われている学校を対象を絞り、およそ100校余に絞り、新たな活動を始めることになりました。

今年の活動方針は以下の通りです。

1. 毎週3~4日を学校訪問日とし、図書の回収を兼ねて1日に3~4校訪問する。(距離や悪路など地理的状況を勘案)
2. 1週間に1校を選び、配布図書を活用し英語の本の読み聞かせと、図書館長による英語のモデル授業を実施する。
3. BCMLの活動に当たるスタッフを、図書館長・司書(会計を兼務)運転手(配本担当兼無)の3人に絞る。



2の新規活動については、学校や生徒たちと今までにはない親密な関係を築くことができ、尊敬を持って迎えられるなど、新たな一歩を踏み出しました。この活動に伴い図書館長の給与を月にRS10,000昇給。

学校が休みの日には、ポカラの図書館は近隣の子供たちで賑わい、毎日通う勉強熱心な少年もいるなど、「石の上にも3年」を実感しています。第15期は、年間約150校に図書を届けることができました。

Saku-Laligurans 事業

(少女のための洋裁による職業訓練)

4年目を迎えるこの事業も、50人の卒業生を送りだしました。その半数が洋裁の技能を身に付けて村に帰り、自分のお店を開業する、ポカラの洋裁店に就職するなど、経済的な自立に成功しています。



自作のドレスを着てファッションショー

当初は、本気で洋裁に向きあう生徒ばかりではなく、腰かけ的に在籍していた時期もありましたが、ローカーストでかつポカラ周辺に頼れる親戚がいない少女の為に、図書館3階の一部屋を、4人収容の寮として開設した頃から、本格的に洋裁を身に付けて経済的に自立したいと熱心に研修に励む少女たちの集団に成長してきました。

ネパールの洋裁学校を卒業した有資格者でも指導できる技能を十分に備えていないことが分かり、その後は

研修生の中から人格・技能共に優秀な人を先生に選抜して育ててきました。いつかはこの先生のようになれるという希望を新入生たちは持つようになりました。現在、Saku-Laliguransのお店開店に向けて準備を進めています。

研修制度は、3か月ごとに進級試験があり、合計9か月の訓練を終えるとミシンと修了証書を贈呈しています。訓練期間中も、RS3,000~3,500の研修手当を支給し、彼女たちの生活を支えています。



最近では、Saku-Laliguransの成果が評判を呼び、入室を待つ少女が常に複数名いる状態にあります。いずれも極めて困難な生活環境におかれた少女たちです。



Bagwathi Primary School

校舎が完成し 8 年生まで学習できる資格を取得しました。いずれは 10th Grade を取得する予定のようです。勿論その為の余裕教室は確保できています。7 割がローカーストに属する集落の学校としては、破格の規模と環境を整えることが出来、小学校としての体制が整うことになりました。昨年まで、会長を務めたプラカッシュ グルング氏は、ネパールで最優秀の「学校運営協議会」会長賞を授与されました。ブッダ基金は、合計 RS4,800,000 の建設資金を供与しました。



学校運営の経済的自立を支援する目的で、裏山に設けたコーヒー園は、残念ながら今年も雹(ひょう)の被害にあい、期待通りの収穫には至りませんでした。124Kg

の収量から 16.5%が販売できる優良レベルの豆になりました。収量の少ない今年では RS200/100g を訪問者に販売しています。この方法が最も利益を得やすいとのことでした。

3 年後は 500Kg が目標で、各家に 300 本のコーヒーを植えて各自が世話する体制を取っています。景観に恵まれたこの集落は国連の支援を受けて、エコビレッジとしてツーリストを迎える仕組みが整い、世界各地から訪問者があり、その人たちを英語教師として迎えるなど、ブッダ基金だけでなく、世界中に支援の輪を広げる努力をしています。私も一泊しましたが、昔のネパールの暮らしを体験できる等、御勧めのコースです。満天の星空もあります。皆さまいかがですか？



ブッダ基金 新体制発足

平成 28 年 5 月より、ブッダ基金は新体制となり、さらに、第 16 期が開始した 8 月より、新たに 2 名の理事を迎えました。

<新体制>

- ・理事長 加藤 義一
- ・副理事長 山口 貴司
- 理事総数：10 名 監事：1 名
- ・事務局 山影 敏康／戸田 純子



<新 理事長より ご挨拶>

「東南アジアの恵まれない子供たちのために使ってほしい」という気持ちと共に大金を私に託し旅立った新実淑子さん。早いもので 6 年を迎えようとしています。

この間、彼女の遺志を実現しようと山口前理事長、水野理事、原田前理事らのアイデアにより、「にいみ号」という名前の図書館車(大型バス)を作り東南アジア最貧国ともいわれているネパールに送りました。

このバスは今でも彼女の遺志とたくさんの本を積んでヒマラヤ山中の小学校に本を届けています。ヒマラヤの奥地には教育を受けることのできない子供たち、貧しいがゆえに自分の思うような生き方を選べない少女たちがまだまだいます。

私達ブッダ基金は、子供たちが幸せになることを願い、医療、教育、女性の地位向上の観点から現地の皆さま

んと苦労を共にし、さらなる事業を展開していきたいと考えています。皆様の応援をよろしくお願い致します。

<新 理事 ご紹介>

第 16 期(平成 28 年 8 月～平成 29 年 7 月)より、理事に就任いただいた方です。

- ・鬼頭 秀行 氏(きとう小児科・皮膚科 院長)
- ・眞瀬 悦邦 氏(有 番匠 一級建築士・代表取締役)

<新 事務局 自己紹介>

事務責任者：山影 敏康

三方原町に在住。元高校の英語教師で、現在外国人に日本語を教える仕事もしております。ネパールと日本との橋渡しのために、微力ながら全力を尽くす所存です。どうかよろしくお願い致します。



事務員：戸田 純子

栃木県那須郡那珂川町生まれ。約 3 年前に夫の転職で浜松に来ました。元 PC インストラクター(初心者向)。英語と高地が苦手です。ブッダ基金には不向きですが、広報誌作成や Web サイトの更新など得意なところでお役に立てればと思っております。

<サティハル>とは、ネパール語で「友達」という意味です。みなさんとの繋がりが深まることを願っています。



第15期決算、第16期予算のご報告



科目	15期予算	15期実績	16期予算
経常収益の部			
(1) 会費	510,000	370,000	528,000
(2) 寄附一般	500,000	2,473,175	500,000
(3) 特別寄附 ※派遣費等	1,000,000	206,812	500,000
(4) 震災寄附	500,000	336,209	0
その他の収益			
利息・為替差益	2,000,000	944,533	800,000
その他		4,000	24,000
当期収益(予算)合計	4,510,000	4,334,729	2,352,000

経常費用の部 *事業費用			
(1) 医療支援	500,000	0	500,000
(2) 教育支援	6,440,000	5,188,295	4,724,000
(3) 産業支援	500,000	1,089,934	500,000
(4) 海外派遣	2,500,000	2,896,396	2,500,000
(5) コーヒー園プロジェクト	450,000	0	658,000
(6) 被災地支援	0	1,137,193	0
経常費用の部 *一般管理費用			
(1) 共通	2,730,000	2,325,710	1,878,600
その他費用の部			
(1) 為替差損	0	10,274,520	5,000,000
当期費用(予算)合計	12,670,000	22,912,048	15,102,600
15期末 繰越金		74,550,635	

**ブッダ基金は、
認定NPO法人です。**

認定NPO法人への寄附は、所得税と住民税の控除が受けられます！

個人の方の場合、所得税と住民税で、寄附金額の最大50%が税額から控除されます。(寄附される方の所得額によります。)

★「寄附金控除」を受けるためには、確定申告を行う必要があります。寄附金受領書を「申告書に添付」、または「申告書提出の際に提示」が必要です。

「寄附金受領書」は、紛失しないようご注意ください。

ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

寄附のお願い と 会員勧誘のお願い

日頃はブッダ基金の活動にご支援、ご協力いただき、ありがとうございます。今後も医療・教育・産業・女性の地位向上などの支援を継続し、更に支援の輪を広げていく所存であります。皆様の温かいご支援を引き続きお願いすると共に、この活動に参加していただける方のご勧誘をお願い申し上げます。

<年会費>

正会員	一口	12,000円
個人賛助会	一口	6,000円
団体賛助会員	一口	30,000円

※ 郵便局へのお振込みの際は、お振込用紙へお名前、ご住所の記載を、静岡銀行へお振込みの際は、お電話、FAX、またはメールにてお名前とご住所をお知らせください。寄附金受領書、領収書を発行させていただきますので、ご協力をお願い致します。

振込先①: 郵便局

口座番号 00890-7-104787

加入者名 特定非営利活動法人 ブッダ基金

振込先②: 静岡銀行 可美支店

預金種目 普通預金

口座番号 0555708

名前 特定非営利活動法人ブッダ基金

特定非営利活動法人ブッダ基金

〒432-8021 浜松市中区佐鳴台3丁目52番22号

TEL&FAX 053-415-8144

E-mail buddhafoundation1991@gmail.com

URL <http://www.buddha-f.org/>